

調査研究終了報告書

研究分野：保健

調 査 研 究 名	福岡県におけるロタウイルス流行実態解明に関する調査研究
研究者名（所属） ※ ○印：研究代表者	○濱崎光宏、吉富秀亮、芦塚由紀、中村麻子、堀川和美（ウイルス課）
本庁関係部・課	保健衛生課
調 査 研 究 期 間	平成 24 年度 － 26 年度 （3年間）
調 査 研 究 種 目	1. ■行政研究 □課題研究 □共同研究（共同機関名： ） □受託研究（委託機関名： ） 2. ■基礎研究 □応用研究 □開発研究 3. □重点研究 □推奨研究 □I S O推進研究
福岡県総合計画	大項目：いきいきと暮らせる安全・安心な社会づくり 中項目：健やかに暮らせる社会づくり 小項目：県民の健康くらしづくり
福岡県環境総合ビジョン（第三次福岡県環境総合基本計画）※環境関係のみ	柱： テーマ：
キーワード	①□A群ロタウイルス ② 遺伝子型別 ③ ロタウイルスワクチン ④ 感染性胃腸炎
研 究 の 概 要	
1) 調査研究の目的及び必要性 平成22年から、23年度に実施した研究でノロウイルス以外の感染性胃腸炎原因ウイルスの中ではA群ロタウイルスが多いこと、遺伝子型としてはG1P[8]、G9P[8]型が多いことが解った。しかしながら患者報告数が多いにも関わらず搬入検体数が少なく、遺伝子型別等による詳細な感染実態は把握できていない。そこで、県内で流行しているA群ロタウイルスの遺伝子型別を行い流行の実態を解明するとともに、平成23年度に承認されたロタウイルスワクチンの効果の評価のための基礎データとすることを目的とした。	
2) 調査研究の概要 福岡県内で流行しているロタウイルスの実態を解明するために感染症発生動向調査事業で搬入される検体について、A群ロタウイルスの遺伝子型を決定した。また、ロタウイルスワクチンを接種した二児から定期的に便を採取し、A群ロタウイルスの排泄量を調査した。	
3) 調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください。） 感染性胃腸炎の原因ウイルスであるA群ロタウイルスの詳細な流行の実態を把握するため、感染症発生動向調査で検出されたA群ロタウイルスの遺伝子型別を行い流行の実態を調査した。その結果、平成22年度は、G1P[8]型、G2P[4]型、G9P[8]型による流行であったが、平成23年度から平成25年度はG1P[8]を主とする流行であった。平成26年度はG1P[8]型、G2P[4]型、G3P[8]型の混合流行と考えられる。また、ロタウイルスワクチン接種者2児のウイルス排出調査を行った。その結果、ロタウイルスは最長29日まで排出されていることがわかった。	
4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献 本研究において、福岡県で流行しているA群ロタウイルスは毎年変化しており、様々な遺伝子型のA群ロタウイルスが流行していることがわかった。また、ロタウイルスワクチン接種後、最長29日ウイルスが排出され、接種児の腸管内で持続的に感染が起こっていることがわかった。これらの情報は、感染症対策の資料として活用できると考えられる。	
5) 調査研究結果の独創性、新規性 福岡県で流行しているA群ロタウイルスの遺伝子型の詳細な情報はなかった。本研究で流行しているA群ロタウイルスの遺伝子型を明らかにし、毎年、様々な遺伝子型のA群ロタウイルスが流行していることが確認されたことは新規性がある。	
6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性） 研究成果については、学会や感染症研修会、所報等で公表し、感染症に関する行政施策に役立つものと考えられる。	